

イトル奪還! 1st part
Winner's Interview

智 央

Tomoo Takano

「全てが自分よりも格上」と謙遜しながら、次々にワールドクラスの難敵を撃破して決勝戦に駆け上がった高野。23年ぶりとなる日本人同士の決勝戦、常日頃がキューを交えることも多い栗林達との真っ向勝負を制し、遅れてきた華の40期生が遂に大輪の花を咲かせた。

ここでは実感もまだまだわからない表彰式直後に、新選手権者に話を聞いた。

取材・文／高田明

お互い海外で切磋琢磨した人達があ
あの場にいたのはとても大きかった。
僕1人だけだったら
きつかったと思います。



男子テンボール、 初制覇&13年ぶりのタ

高野



最初から行つたら

——まずは今のお気持ち率直に。

高野智央（以下、高） めちゃくちゃ幸せに感じてます。でも実感はまだないです。

——全日本選手権はプロにとって1年の総決算。出場選手も特別ですし、思い入れもあるかと思えます。今年の全日本にはどのような気持ちで臨みましたか？

高 いつも通りかな。ただ、これまで毎年（全日本）選手権では「何でキュー出さなかったんだ」と後悔してました。自分にとって分が悪い相手は多いですし、コンディションも難しくてポケットも小さい。それで毎年縮こまった球ばかり撞いてしまつてました。去年も結局（リー・バン・コルテツザとケビン・チェン（鄭喻軒）に負けました（※ステージ2の勝者最終と敗者最終）。確か13年にベスト64に残ったんですが、その時、デニス・オルコロに当たった時も、彼がすいすい撞いているのを見て、逆にこちらは1球1球とても難しく感じてしまつてやられました。だから今年はそのような経験を踏まえて、失敗するんだつたら最初にしておこうと。

——確かに海外の選手にはそういう傾向がありますね。

高 そうですね。今回の予選では3台でプレーしてやはり1台ずつコンディションが全然違いました。結局最初からコンディションを掴んでいる選手なんてない訳だから、「最初から行つたら」とも

うミスつていこうという感じです。

——去年までとはテーブルへの向き合い方が違つたと。

高 全然違いました。腹が括れた状態ですね。あと、今年は人生の転機になることが重なって、頭の中が少し変わったというか。今回の選手権には真つサラな気持ちで来ることができました。

高 ——見逃し三振はしないように？

はい。

ブレイクを見付けるのが早かつた

——最終日は長い1日でしたか？

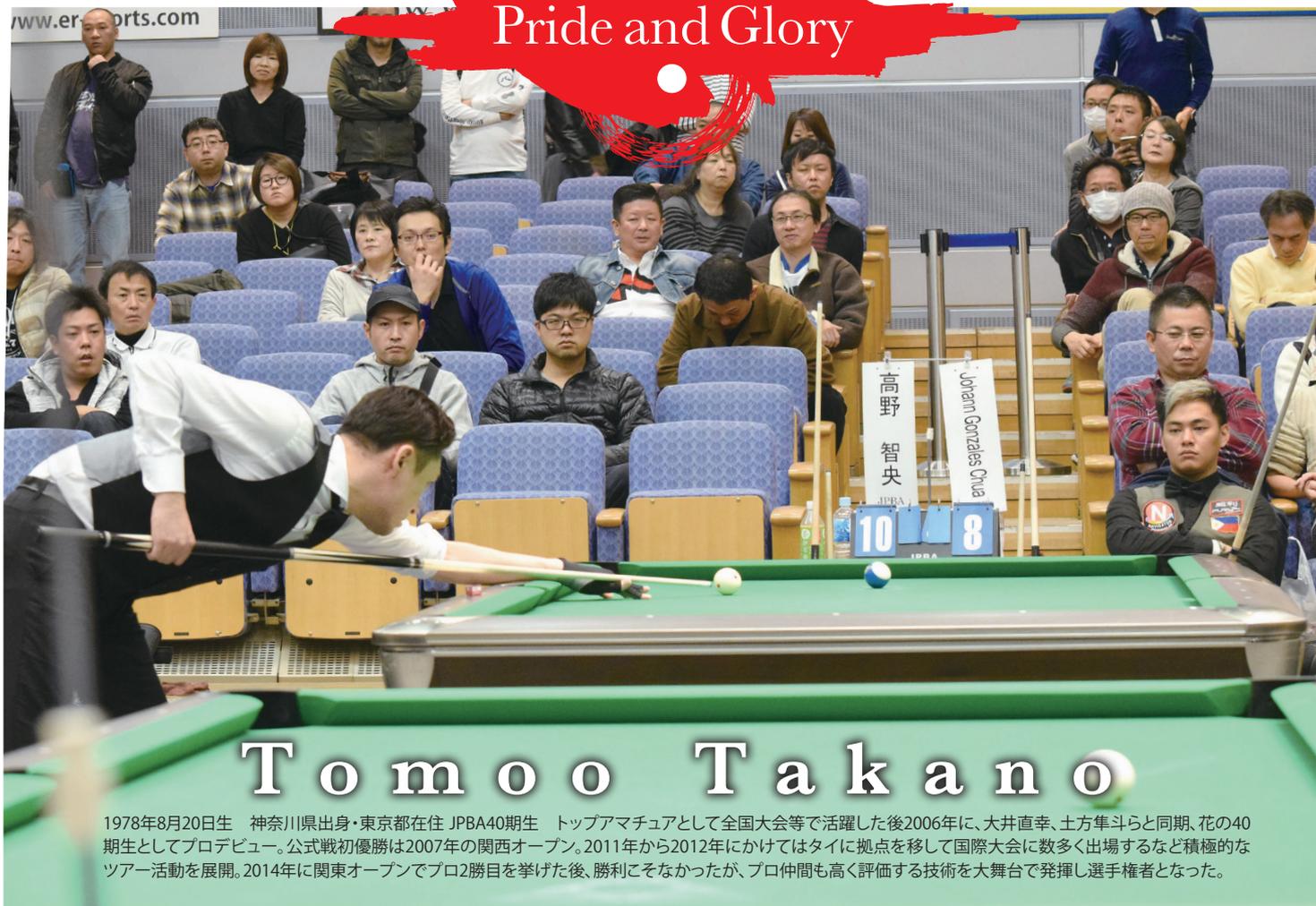
高 長い1日……いや、あつという間でした。

——まずは初戦のベスト16、相手は前年チャンピオンのヨハン・チュアでした。

高 この試合は珍しくチュアが硬かつたですね。それでも自分の球を撞いて自分を変えないように心掛けて試合をしていました。チュアとは初めての対戦だったんですが、向こうには負けられないという気持ちも絶対あつたと思います。

——高野さんは自分がやりたいことを貫いて朝の初戦を突破した。

高 そうですね。あとは恐らく、みんなよりも効くブレイクを見付けるのが早かつたですね。チュアと試合したテーブルだけは弱く撞いても割れが強かつたんです。それで、ソフトにブレイクしたらそれがビタはまりでした。それを見てたチュアがソフトブレイクをパクリ出して、「やべえ!!」と。チュアはコピー能力が



Tomoo Takano

1978年8月20日生 神奈川県出身・東京都在住 JPBA40期生 トップアマチュアとして全国大会等で活躍した後2006年に、大井直幸、土方隼斗らと同期、花の40期生としてプロデビュー。公式戦初優勝は2007年の関西オープン。2011年から2012年にかけてはタイに拠点を移して国際大会に数多く出場するなど積極的なツアー活動を展開。2014年に関東オープンでプロ2勝目を挙げた後、勝利こそなかったが、プロ仲間も高く評価する技術で大舞台で発揮し選手権者となった。

高いので、その時は負けたいと思いました。ですが中盤でラッキーな展開があつて、そこから気が楽になりました。

—— 続くベスト8の相手は、飯間智也プロでした。

高 この試合の出だしは逆に僕が硬かったです。彼のストロークを見たら「すごい上手い」「俺もそう撞きたい」とかなつちやつて(笑)。「あ、やばいやばい」と焦って序盤で2回くらいミスしてます。

—— 一時は0-5まで引き離されましたが、そこからの逆転勝利でした。

高 「最初にミスしとこう作戦」が功を奏したというか、中盤以降はマインドを立て直せました。そしたら今度は彼がおかしくなった感じですよ。まあ僕の最初のミスもおかしくて出てたんですけどね(笑)。

頭は働いてました

—— そう言えば去年はベスト16の段階で日本人は浅野正人プロ1人でしたが、今年の高野さんを含めて8人でした。

高 そう、大井(直幸)、クリ(栗林達)(土方隼斗(飯間)智也、山川(英樹)さん、羅(立文)と、仲が良かったり、お互い海外で切磋琢磨した人達があの場にいたのはとても大きかったです。僕1人だけだったらきつかったと思います。

—— 相乗効果が働きましたね。

高 はい。みんなもそう感じていたんじゃないかと思えます。僕は準決勝の時、

隣のクリのスコアが気になってました。

—— その準決勝では柯秉中を5点に抑えました。決勝日で1番失点の少ないゲームがこの1戦になりました。

高 この試合もブレイクを僕が先に見つけたから勝った。実際には絶対勝てる相手じゃないと思ってやっていた。あとは、柯にらしくないミスが2球くらいあったのかな。

—— 試合中、柯は「やだなあ」という顔を結構していて、見ていると力勝ちした感じにも見えました。

高 柯とは世界選手権で1回戦いましたが、あのレベルの選手ですから力勝ちとは全く思っていないです。超リスペクトしながら撞いてました。ただ、確かに僕自身はちゃんと撞けた球の方が多くて、頭は働いてました。リスクをなるべく減らすこともそうだし、逆にリスクを背負わずわなくちやいけな球では、リスクを度外視して行くことができていました。

—— そしていよいよ決勝戦。やはり選手権の決勝は違いましたか？

高 いつもより緊張しなかったですね。最初はさすがに硬かったけど、途中から吹っ切れて普段通りでした。相手がクリだったからというのもありましたね。相手の技量もわかっていますし、彼は正面から受けて立ってくれるタイプなので。

—— 清々しく魂がぶつかり合った？

高 はい。そしてテーブルに集中できなかった。試合は展開が良い方、キーになる球をどっちが取るかで決まると思っていました。クリは決勝慣れしているし、

1st part Winner's Interview



選手権の決勝でも撞いた経験がありますからね。その悔しさを持つてたと思います。僕はぶつかり稽古ですよ。しがみつく気持ちで行けました。

——そして日本人2人目の親王牌を獲得。今年は24日に瑠子女王もお見えになりました。

高 こういうものを頂くのは初めてで、権威あるものですので誇りに思っています。親も喜ぶと思います。

人生って面白いですね

——「なぜもつと勝たないのか？」これはよく言われていますよね。

高 よく言われますね(笑)。みんな強いんですよ。

——プロ仲間が認める実力に比して戦績が伴っていないと言われることに対し

ては？

高 それは僕のメンタルの弱さで間違いないです(笑)。甘えん坊なんです。環境の作り方が下手だったり、楽な方に逃げたりすることが多かったです。

——それが結果に現れていたと。

高 追い込むということとをここ5年くらい忘れていたというか、タイから帰ってきてふぬけになっていました。

——さて、今日の優勝ですが、高野さんにとつて、これから大きな変化をもたらすものか、それとも今年1年の総決算としての結果と捉えますか？

高 うん。今は「人生って面白いですね」としか言えないですよ。ほんとにジェットコースターですよ。インペリアルさん(所属店/東京・水道橋)に行つたのも奇跡ですし、隼斗が来たり、大井が来たり。彼らも僕のことを気に掛けて

くれていて一緒にビリヤードしたりとか。あつちから来てくれるというのはまた幸せなことです。

お待たせしました!

——試合というのは、強いから勝てる訳でも、弱いから負ける訳でもない。だけど高野智央のファンは、戦績に期待してたと思います。

高 僕はそういうタイプなんです。アマチュア時代には先輩として(西嶋)大策さんがいて、大策さんがタイトル取りまくつて、ジャパンオープンまで優勝して。それが悔しくて泣いたこともありま。それが25歳の時で、僕もその後アマチュアで勝てるようになってプロにつて。

——2006年、華の40期ですね。

高 1年目で同期の大井がぱつと優勝(東海グランプリ)して、隼斗も優勝(東日本グランプリ第6戦)して。それに比べて僕は東海グランプリ、北陸オープンで負け負け。もう辞めた方がいいんじゃないかなって思ったこともあります。それで、大井はデビュー1年目で年間プロランキング1位。僕はその翌年にフィリピンでの世界選手権のステージ1突破。彼らよりちよつと遅いんです。だから彼らの後ろからというか、彼らが走つてくれているから追い付かないか、と思える。

——それは同期だから？

高 もちろんです。お互い海外戦にも行くし仲も良いので、いろんな話をします。

そんな繋がりがあつて、気に掛けてくれる。やつぱり頑張らなくちゃなと思います。

——40歳の今、大きい流れがゆつたりと来て、何かに向かつて加速をするところなのかもしれないね。

高 はい、腐らないで良かったです。健康であり続けられたのもそうですし、やつぱり頑張つてれば良いことあるんだなと。あ、今になって泣きそうです(笑)。

——今日おいしいお酒を飲んで、明日起きたら何か思うことがあるのかもしれないですね。

高 いや「買い物行きたい」くらいかも(笑)。ホント今はあんまり実感もないですし、まだ下手だと思つてますし。

——この大会中にも相手のプレーを見て「あつ、自分に足りない」という風を感じたということですか？

高 もちろんです。僕はいつも難しく考えがちなので。でも今回はそれがちよつとシンプルにできたかなと思います。

——では2019年以降の高野智央は？

高 そうですね。試合があつたら出る、相手がいるならやる。ビリヤードとの向き合い方をさらに大事にしたいと思えます。自分の中では描いているビジョンもあるんですけど、欲をかかず、一步一步進んでいきます。

——最後にファンや読者の方に優勝直後のメッセージを。

高 お待たせしました! これからもみんなでもビリヤードを愛していきましよう!